

基本理念・学びのあり方・専門性の向上・改革を支える環境整備等について

（検討の背景）

- 児童生徒の興味関心に根差した児童生徒主体の教育を目指してきた本県の特別支援学校
- 学習指導要領の改訂「学びの連続性」「一人一人に応じた指導」「自立と社会参加」の重視
- 第2次長野県特別支援教育推進計画の作成（平成30年度）
「特別支援学校の整備」「専門性強化」「卒後の自立」「インクルーシブな教育」の推進
- 特別支援学校施設の老朽化と児童生徒数の増加に伴う教室不足

■ 特別支援学校の「学びのあり方」や施設等に係る抜本的な改革が必要

■ これからの特別支援学校における
「実現すべき学びとそれを支える環境整備」の基本的な考え方を示した整備基本方針を策定

1 基本理念

- 児童生徒一人ひとりへの支援の充実
- すべての児童生徒の持てる力が最大限伸びる教育
- 障がいの有無に関わらず共に学ぶ
- 多様性を認め合い、多様な他者とつながる力が伸びる教育



【目指すべき特別支援学校像】

一人ひとりの子どもの可能性を最大限伸ばし、
地域とつながりインクルーシブな社会をリードする学校

【実現すべき学び】

児童生徒の可能性が最大限伸びる学び

- 「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を送ることができる。
- 障がい特性に応じた一人ひとりの学びの場があり、満足感を味わうことができる。
- 専門性の高い人材による指導・支援のもと、自分の長所を伸ばすことができる。
- ICT機器等を活用して、多様なコミュニケーションをとることができる。

共生社会の実現に向けた協働の学び

- 小・中・高等学校とのシームレスな関係の中、日常的な交流等により、様々な場と同じ地域の同世代の友だちと自分らしく学ぶことができる。
- 地域や企業等と連携し、共生社会を双方向で学び合うことができる。

2 学びのあり方

【現状と課題】

- 各校独自の考え方に基づいた前年踏襲の傾向の強い教育活動
- 個々の障がいの状態に応じた個別・小集団学習の実践不足
- 障がいの多様化や重度・重複化に伴う教員の専門性の確保
- 副学籍制度による交流活動の地域格差
- 地域や企業との連携の学校間格差

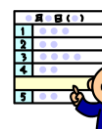


(1) 可能性が最大限伸びる学びの実現に向けて

- 本県の特別支援学校が目指すべき学校像と実現すべき学びの整理
- 主体的な学びを実現するための配慮点や心構え、適切な評価のあり方等を示したガイドラインの作成
- 児童生徒の障がいの状態や願いに寄り添った個別・小集団による学習の充実
- 障がいによる困難さを改善・克服するための自立活動の充実と日課への位置づけ 等

(2) 共生社会の実現に向けた協働の学び

- 副学籍校交流の先進事例や配慮点の紹介など交流学习の推進をサポート
- 生徒の働く意欲とスキルが伸びる新しい作業種の導入や企業内実習の拡充
- 企業が生徒の働く姿をイメージできるような動画の作成やプロフィールシートの活用の推進
- 特別支援学校の教育資源を活用した地域や企業と学び合える交流の拡充 等



3 多様な教育的ニーズに対応する専門性の向上

- 特別支援学校の勤務年数や希望する専門分野に応じたキャリアステージ別研修体系の構築
- 各校の専門性の要として、担任のサポートや学校全体の指導の質の向上を推進する「専門性サポートチーム」の編成
- 才能の発掘伸長や生活の充実に資する一流のスポーツ選手や芸術家等による授業の実施 等

4 学びの改革を支える環境整備等の考え方

(1) 学習環境の整備 ※別紙《4-(1)補足資料》参照

(2) 分教室

- 著しい遠距離通学解消のため小中学校への設置希望のある市町村については設置を共に検討
- 遠距離ではなく、インクルーシブ教育の推進のみを目的とした設置希望のある市町村については、市町村立特別支援学校の設立を支援（須坂市立須坂支援学校の例） 等

(3) 寄宿舎

- 生活習慣の獲得や社会性の伸長等、舎生の可能性を伸ばす指導の充実
- これからの寄宿舎のあり方検討の実施とそれを踏まえた管理運営指針等の策定
- 現代の生活様式に合ったバリアフリーな施設設備の整備 等

(4) 校名について

- 「養護学校」は「特別支援学校」「学園」等への名称変更を視野に検討
- 「盲学校」「ろう学校」は、名称変更の是非を含めて丁寧に検討

(5) 県内に2校配置されている特別支援学校について（盲・ろう・肢体不自由・病弱）

- 東北信、中南信地区の当該地域のセンター的機能の拠点校として機能を充実

